

27U-pm05S

Clonal complex 8 の市中感染型 MRSA の増加

○笹井 菜央¹, 中南 秀将¹, 杉山 拓¹, 宮嶋 英里¹, 野口 雅久¹ (¹東京薬大薬・病原微生物)

【目的】病原性の高い市中感染型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (CA-MRSA) の病院内への流入は、易感染性宿主の多い病院内において深刻なアウトブレイクを招く恐れがある。これを防ぐためには、流行している CA-MRSA の分子疫学的特徴を把握する必要がある。しかし、病院とは異なり、CA-MRSA の収集はクリニックに通院する外来患者を対象とするため、長期的なサーベイランスの実施が難しく、流行株の分子疫学的特徴は不明である。本研究では、同一地域で 10 年間の長期にわたり収集した CA-MRSA を解析し、現在の流行型を明らかにした。

【材料・方法】2007 年から 2016 年に、香川県高松市の 7 医療機関を受診した外来患者から分離された 2,472 株の黄色ブドウ球菌を使用した。SCC*mec* 型別、薬剤耐性遺伝子、毒素遺伝子の検出は multiplex PCR により行った。抗菌薬の感受性は、寒天平板希釈法により測定した。分子疫学的解析は、multilocus sequence typing (MLST) および pulsed-field gel electrophoresis (PFGE) により行った。

【結果・考察】MRSA の分離率は 21.7% (536 株) であり、年度によって大きく変動していた。SCC*mec* 型別の結果、CA-MRSA に多い IV 型と V 型の全体数に大きな変化は認められなかったが、IV 型の割合が増加していた。MLST 解析の結果、2012 年まで最も主流であった clonal complex (CC) 89 clone が有意に減少し、高病原性 CA-MRSA 株である USA300 clone と同一の CC8 clone が有意に増加していた ($P < 0.05$)。本研究から、CA-MRSA の流行型は 10 年間で大きく変化し、現在は CC8 clone が最も主流であることが明らかとなった。

会員外共同研究者：池田 政身 (高松赤十字病院・皮膚科)